

一般選抜 後期

試験問題

国語

【注意事項】

- 一、試験開始の合図があるまで、この表紙を表にして、この試験問題冊子を開かないでください。
- 二、試験問題冊子は、八ページ（この表紙は含めません）あります。
- 三、試験終了後、解答用紙は、すべて回収しますので持ち帰らないでください。
- 四、試験終了後、この試験問題冊子は、持ち帰ることができます。
- 五、問題の内容に関する質問にはお答えできません。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔のことになってしまいが、一九六〇年代、学生運動が盛んだったころ、新入生を学生運動に巻き込むには理屈はいらない、デモに連れていけばいいとよく言われていた。泳ぎを覚えさせるには水に放りこめばいいというのに似ているが、実際、これは効果があった。街頭に出て手をつなぎ、スクラムを組んで機動隊の盾の前に立つという(1)スリリングな体験をしただけで、党派意識を持ってしまおうのである。

どちらの側に立つべきか、身体が決めてしまう。連帯という言葉が当時は盛んに用いられたが、この言葉も、よく考えてみると、思想にかかわるよりもむしろ身体にかかわっている。带状に連帯することができるのは、頭脳ではなく身体なのである。

政治活動とは何よりもまず理論の問題であるとすれば、これは(2)由々しき事態である。人は熟考して自身の立場を決めるべきものなのだろうが、事実は違っている。はじめに連れていかれたデモがその後の政治的な立場を決めてしまうとすれば、理論などたんなる(3)装飾にすぎないことになる。

(ア) 、なかには熟考するものもあるだろう。熟考し、その後に立場を変更するものも出てくるだろう。だが、大方の人間はそうではない。たとえば、最初の体験がデモを規制する機動隊の一員としてのものであれば、政治的立場もまた正確になるに違いない。かりに熟考するにしても、多くは、身体的な体験を基盤にし、それに導かれるようにして考えることになるに違いない。

(イ) 一九六〇年代のことだが、小劇場運動が(3)一世を風靡した。寺山修司、唐十郎、鈴木忠志ら、才能ある劇作家、演出家が次々に登場した。彼らの舞台はしかし、その舞台において画期的だっただけではない。客席においてすでに画期的だったのである。

既成劇場を用いることができなかった彼らは、普通の家屋に座席をしつらえて急ごしらえの劇場にしたり、空き地にテントを張って独特な演劇空間をつくったりした。興味深いのは座席だった。もともと狭い空間である。観客ひとりに(4)椅子ひとつなどという贅沢なことは許されない。そこで、仕切りも何もない床面に前後左右ぎっしり観客が詰め込まれることになった。それこそ足の踏み場もないほどに詰め込まれる。胡坐をかくなどもつてのほか、正座も後の観客に迷惑をかける。

(ウ) 観客全員、膝小僧を抱えなければならなくなるといことも珍しくなかった。小劇場運動とは、何よりもまず、狭い空間にぎっしり詰め込まれるという観客のこの体験と切り離しがたく結びついている。実際、劇場入口に出来た(5)長蛇の列を、短時間のうちにいかに(6)巧みに狭い客席に(7)収容するかということじたいが、彼らの演劇の一部になっていたと言っていいたいだろう。

重要なのは、不可能と思われるほどの人数が小屋のなかに入りきるまでに、観客のあいだに奇妙な連帯感が生じていたということである。互いに協力しあわなければ入りきらないからである。劇の始まる前にすでに、観客はそれぞれに孤立した個人ではなく、息の合った観客というひとつのまとまりになっていたのである。

この共生感こそ小劇場運動を特徴づけるものだったが、留意すべきは、それが何よりもまず観客の身体を(8)介して生まれていたということである。デモに似ている。身体はこの体験こそ、その後に続く頭脳の(9)熱狂を導くための水路にほかならなかった。

人は——少なくとも随意筋のレベルでは——思うように自分の身体を動かす。だが、身体もまた別なかたちで頭脳を動かしているのである。動かされた頭脳が、さらに身体を動かしているのだ。むしろ、この問題は古くから考えられてきたことだ。それこそ「健全なる精神は健全なる身体に宿る」である。言い古された言葉だが、精神と身体の関係が考えつくされているとは思えない。

(三浦雅士『考える身体』による)

問1 傍線部 a、j の漢字の読みを平仮名で書きなさい。

問2 傍線部(1)「スリリングな体験」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 恐ろしく不快で、危険から遠ざかりたくなるような体験
- 2 危険をはらんでいるが、緊張感や高揚感があるような体験
- 3 安心して取り組めるが、やや退屈な印象のあるような体験
- 4 興味深い内容によって、緊張と弛緩が繰り返されるような体験

問3 傍線部(2)「由々しき事態」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 深刻で放置できないほど重大な事象であること
- 2 不思議で説明のつかない異常な状況であること
- 3 他人に笑われるような情けない失敗であること
- 4 意外な状況でむしろ好ましい結果となること

問4 空欄(ア)～(ウ)を補う言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|------|---|------|
| 1 | ア | そして | イ | たしかに | ウ | そのうえ |
| 2 | ア | そして | イ | また | ウ | けだし |
| 3 | ア | むろん | イ | しかし | ウ | かえって |
| 4 | ア | むろん | イ | やはり | ウ | かくして |

問5 傍線部(3)「一世を風靡した」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 多くの人々の支持を失って世間から姿を消した
- 2 強い風のように時代を駆け抜けて消えていった
- 3 その時代の世間に大きな影響を与えて流行した
- 4 舞台上を風のように縦横無尽に動き回った

問6 本文の内容と合致するものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 理論的に政治を理解した上でデモに参加した学生が多数を占めていた。
- 2 観客同士が隣り合って協力し合うことで、劇の内容に対する理解が深まった。
- 3 政治的な立場の形成は、体験よりも思想や熟考が先にあるものである。
- 4 観客の身体的な体験は、劇が開始する前において既に形成されるものであった。

【二】 次の(1)～(5)の各問いに答えなさい。

(1) 次の四字熟語の空欄 に入る漢字二字を書きなさい。

前代 (これまでに聞いたことがないほどに珍しいこと)

(2) 熟語の構成が他と異なるものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 強風
- 2 温泉
- 3 前年
- 4 寒冷

(3) 次の表現の傍線部は誤っている。正しい漢字二字を書きなさい。

弁護士の抗弁は、怪刀乱麻を断つようであった。

(4) 「付和雷同」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 物事の道理をよく考えて判断すること
- 2 自分の意見を持たず、他人に従うこと
- 3 誰にでも公平な態度で接すること
- 4 古いしきたりや風習を守ること

(5) 三島由紀夫の作品を、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 潮騒 しほざわ
- 2 雪国
- 3 暗夜行路
- 4 堕落論

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文字と言葉というのは、どこの国でも密接に関連しているわけですから、異言語の文字を取り入れると、どうしても不便なところが出てくる。その不便を何とか克服しようと思えますと、何かの工夫をしなければならぬ。

当時の(注1)アツカド人がシュメールの象形文字に接したときのように、日本人が漢字を取り入れていたわけですが、シュメール語とアツカド語は全然違うので、これは何とも使いようがない。それで、いろいろな変化するわけでありませぬ。

最初は、象形文字を自分の発音で読むということが起こる。例えば、シュメール語で父親のことを「アン」と言いますが、アツカド語系では「アブ」とか「アバ」という言い方になる。そうすると、「アン」という文字を持ってきて、そのままこれを「アバ」と読む。発音だけ変えて文字をそのまま使うということもするわけです。

ただ、シュメール文字と漢字とは完全に同じではなくて、一部の **A** を同時に音節文字にも使っていた。日本の(1)万葉仮名も同じですが、これが、後になると非常に複雑怪奇でわけが分からなくなってしまふ理由です。これは、「アン」を「アン」という音にも使ったわけですから、一つの文字が時には父親を意味して、時には「アン」という音節を意味している。そうなりますと、これを手に入れた方は、父にするときはこれを「アブ」と読み、音節としては「アン」として使う。一つの文字が二重の発音になってくる。

日本の漢字も二重、三重の発音になるわけで、音と訓があつて、音の中に呉音と漢音があるという複雑な形になっておりますが、ちよつとこれは似ているわけでありませぬ。

それが、だんだんに整理されていく。これは大体アツカド人がやったことですが、だれか非常に強い権力者がいて、こうしようと決めたわけでもないで、相当原則がないのであります。

後にこれを解説したドイツのベーツオルトという言語学者が、これはどうにもならない、複雑怪奇で手がつけられないというので、「**X** 戦慄すべき楔形文字」という面白い言葉を言っております。どういうふうに読んでいいか、さっぱり分からない。これは後になっても非常にアツカド人は困るわけで、いろいろな工夫をします。そして、(2)限定符というような符号を付けるわけです。象形文字として読むときに、その横に符号が付いている。後になりますと、その符号が何で付いているのか分からなくなって、それを文字だと思つて読み込もうとするとますます分からないとか、本当に後になって読む方は **Y** 七転八倒するようなことになるわけです。

日本の万葉仮名は、本当によく読めたなと思うのですが、それは **コ** **テン** 本というのが平安朝初めにありましたから読めるので、あのまま残っているだけでしたらちよつと読めないわけです。一つの漢字が、象形文字としても使われている。「山」と書いたら「やま」という意味にも使われているわけで、同時に何かの音符号として使われているのかもしれない。これは一切分からないのです。万葉も後になると、随分 **ジ** **ョウ** **ウ** **ダン** みたいなきことをやっています。「出る」というのに「山上復有山」などと書いていて、こうなると普通だとわけが分からなくなってくる。しかも、各人相当勝手なことをやっております。

大体仮名というのは四十七文字あればいいわけですし、それ以上は要らない。「ん」が出来るのは平安朝末期ですから、それまでは漢字が四十七あれば仮名は出来るわけです。四十七の漢字がこの仮名に対応すると組織的に出来ていれば、そんなに **ク** **ロウ** **ナク** 読めるわけです。ところが万葉仮名はそうなっておりません。万葉仮名は幾つあるかとクイズを出すと大体当たらないと言いますが、九三七文字ある。どうしてそんなに増えたのかはいろいろな説がありますが、**キョク** **ダ** **ン** 言方をする、各人好きな漢字をとつて、それらしい音に当てはめたということになるのであります。その漢字が一つあるからといって、どういう音なのか分からない。別な漢字があるからといって、違う音とは言えない。しかも、それをそのまま象形文字として使つて、しかも訓読み、すなわち日本語の読み方をそのまま入れている場合もあるかと思つと、漢文としてそのまま入れている場合もあるわけです。

大伴旅人に「あな醜賢しらをすと酒飲まぬ人をよく見れば猿にかも似る」という面白い歌がありますが、この中の「酒飲まぬ」というところは「酒不飲」と書いていて、この部分だけを取ると明らかに漢文になっている。あとは全部音として読みながら、ここは三字だけ漢文が入っていると、こういう書き方もありまして、ごちゃごちゃなのです。

しかし、一つの文字が自然発生的に出来ていくときは、大体そういう **カ** **テイ** をとっているわけで、もしも外国人が、何もなしにこれを何とか読み解こうと思つたら、やはりあれは「戦慄すべき万葉集」ということになったらと思つます。

これがだんだん整理されていきまして、一文字が一音になる、一つの漢字を決して二音に使わない。一文字一音という形に、まず整理されていく。その次に、この漢字はこの音というふうに整理されていく。そして、大体九世紀に入り

ますと、ほぼこれが整理されまして、仮名というものが出来てくるわけです。この間何年かかったかというところ、正確に言えませんが、大体四百年ぐらいかかって徐々に出来てきたわけで、決して一気に出来たわけではないのであります。

これは大変面白い現象で、こういう作業、すなわち **B** から **C** を作り出す作業をしたのが、大体人類の中で日本人が最後であって、それ以後はないのであります。大体ほかからアルファベットを輸入するという形になる。何らかの系統のアルファベットを輸入して自国の文字とする。ですから、仮名というのは日本語にしかないわけであって、どこの国にもないわけであります。

その点で仮名は、文字の歴史を考える場合に大変面白い文字でありまして、どの系統でもない。大体の文化というのはどこかの系統ということが言えるのですが、仮名文化だけはこの系統でもない。日本の系統という以外に方法がないのです。仮名を発明したことは、実は日本人が過去においていろいろなことを工夫したり発明したり、あるいは導入したりしたわけですが、その中で最高の発明と言っているわけ、もしも仮名を漢字から作り出すことをしなかったならば、まず日本文化というのはなかっただろうと考えてよいと思います。

では、最初は一体何が動機と申しますか、どういふところから仮名がないとどうにもならないという発想をしたのか。これは正確には分かりませんが、まず人名の表記であります。人名を他人の文字、すなわち漢字で表記しようとする場合、表音文字として使うか、自分の方が中国的に名前を変えてしまうか、それ以外に方法はない。ですからこれは、実に長いたくさんの漢字を並べて名前を表記していく。この場合は、漢字には意味がなく、全部 **D** であります。

次に地名ですが、地名も方法がない。異文字を導入して最初に明確に表音化されるのはしばしば **(3)** 固有名詞でありまして、後代がこれを読み解くときに使うのも固有名詞であります。有名なシャンポリオンが、**(注2)** ヒエログリフの読み方を発見した。何から読み解いたかというところ、あの当時はカルトゥーシュという丸い輪がありまして、その中に固有名詞があるというのが分かっていました。ですから、下にあるギリシャ文と対応して、多分この固有名詞だろうというので、それを当てはめていった。その中に、クレオパトラというのが出てまいりまして——有名な **(注3)** ロゼッタストーンですが——、そのカルトゥーシュの中にある文字は、一見絵を連ねたように見えるけれども、そのはずはない、これをクレオパトラと読むのだと、こういうところから全体を読み解いていくわけです。もしも後代が『万葉集』を解読しようと思うと、まず手掛かりは固有名詞ということになるだろうと思います。

ですから、まず固有名詞が非常に早く表音文字化される。しかし、これは原則はありませんから、さまざまな形で勝手な漢字を入れて表音文字化することが起こっております。

その次に、何を表すために表音文字化したのかというと、多分歌であろうということです。と申しますのは、『万葉集』を見ますと、最初の表題とか詞書は全部漢文です。当時の学識人は漢文ができましたから、別に漢文で書いて意味が分からないわけではない。ただ、歌を漢文にしてしまったら日本語の詩ではなくなるわけで、当時の考え方で、言霊を殺すというような言い方になったのだらうと思います。これだけは方法がないが故に、これを表音文字で表す以外に方法がなかった。ですから、『万葉集』の詞書が漢文で、中の歌が万葉文字というのは、日本における仮名発生の一つの段階を示しているといえるわけですね。

(山本七平「漢字とかな」(『漢字文化を考える』所収)による)

(注1) アッカド人Ⅱシユメール人のあとにメソポタミアで文明を築いた人々。

(注2) ヒエログリフⅡ古代エジプトで使用されていた象形文字の一種。

(注3) ロゼッタストーンⅡ古代の文字が刻まれた古代エジプトの遺物。

問1 傍線部 a s e のカタカナにあたる漢字を含むものを、各群のうちからそれぞれ一つ選び、その番号を記しなさい。

a コテン

- 1 テンキョに基づいて論文を書く。
- 2 この通りには新しいテンポが並んでいる。
- 3 有名な画家のテンラン会が開かれた。
- 4 生徒の作文をテンサクした。
- 5 自動車事故の損害をホテンした。

b ジョウダン

- 1 外国とジョウヤクを交わす。
- 2 作物は豊かなドジョウで育つ。
- 3 水分がジョウハツする。
- 4 街を守るためのジョウヘキが残っている。
- 5 文章がジョウマンにならないようする。

c クロウ

- 1 彼の演技はロウジュクの域に達している。
- 2 伝令からロウホウが知らされる。
- 3 長年の功績をたたえてイロウ会を開いた。
- 4 荒天でハロウ警報が発表された。
- 5 学校のロウカを走ってはいけない。

d キョクタン

- 1 毎日のタンレンによって技術を高めている。
- 2 彼は姿勢も服装もタンセイである。
- 3 食料を求めて森の中をタンサクする。
- 4 非常時にもタンリョクを失わない人が求められる。
- 5 彼の食生活はきわめてタンパクである。

e カテイ

- 1 彼の思考のコンテイには利他がある。
- 2 その証拠が不正をロテイした。
- 3 先生に書類をテイシュツした。
- 4 ティネイな説明で理解が深まった。
- 5 目標達成がシャテイに入る。

問2 空欄 A D を補う言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| 1 | A | 象形文字 | B | 表音文字 | C | 象形文字 | D | 表音文字 |
| 2 | A | 象形文字 | B | 象形文字 | C | 表音文字 | D | 表音文字 |
| 3 | A | 象形文字 | B | 表音文字 | C | 表音文字 | D | 象形文字 |
| 4 | A | 表音文字 | B | 象形文字 | C | 象形文字 | D | 表音文字 |
| 5 | A | 表音文字 | B | 表音文字 | C | 象形文字 | D | 象形文字 |

問3 傍線部(1)「万葉仮名」のここでの意味の説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 漢字の意味のみに注目して使われた文字体系のこと
- 2 日本で象形文字・音節文字として使われた漢字のこと
- 3 漢字をもとに考案された現代で使用される平仮名のこと
- 4 平安時代以前に漢字とは独立して作られた文字のこと
- 5 固有名詞のみに使用された日本独自の文字体系のこと

問4 傍線部X「戦慄」、Y「七転八倒」の意味としてふさわしいものを、各群のうちからそれぞれ一つずつ選び、その番号を記しなさい。

X「戦慄」

- 1 大切に守り抜こうとすること
- 2 理解が難しいために苦しむこと
- 3 期待が叶わずがっかりすること
- 4 内容がはつきりせず戸惑うこと
- 5 恐ろしくて体が震えあがること

Y「七転八倒」

- 1 何度も考えを変えてしまうこと
- 2 混乱して收拾がつかなくなる事
- 3 苦しみ悶^{もど}えるあまり転がり回ること
- 4 苦難を乗り越えて成長すること
- 5 失敗しながらも立ち上がる事

問5 傍線部②「限定符」とあるが、これに関する説明としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 限定符は、象形文字として読むときにその横に添えられた符号である。
- 2 後代の人々は限定符を文字の一部と誤解し、読み解きをさらに困難にした。
- 3 限定符は、アッカド語の音節文字と象形文字の区別をつけるために考案された。
- 4 限定符は、元々アッカド語の解読を試みたドイツ人によって考案された。
- 5 限定符はアッカド語の補助的記号であったが、やがてその存在意義は薄れた。

問6 傍線部③「固有名詞」とあるが、本文における固有名詞が最初に表音文字化された理由としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 人名や地名では読み方が重視され、異文字を用いるしかなかったから。
- 2 地名や人名は記憶されやすく、音声的にも重要だとみなされたから。
- 3 当時は、独自の文字で名前を表記することが最優先事項だったから。
- 4 固有名詞を異文字で表記すると、読み方や意味の把握が困難だったから。
- 5 固有名詞は他の名詞よりも使用頻度が高く、重要度が高かったから。

問7 Fさんは本文を読んで、自分の考えを整理するために次のような「メモ」を作成した。これについて後のi、iiの問いに答えなさい。

〔メモ〕

① 異言語の文字を取り入れる際に生じる不便に対して、工夫がとられてきた
例…アッカド人とシュメールの象形文字

② 日本では当初九三七文字の万葉仮名を作り出し、その解読には難解な点もある

例… 甲

③ 一文字につき一音になるよう整理され、九世紀に入ると仮名として体系化される

④ 仮名は 乙 といえるため、仮名がなければ日本文化もなかったと考えてよい

i 空欄 甲 を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 限定符といわれる記号を用いているが、どのような役割を果たしているのか不明である
- 2 多様な万葉仮名が残ってはいるが、解読のヒントとなるようなテキストは残っていない
- 3 日本語を表す手段として漢字を使うだけでなく、和文の中に漢文が混じっている場合がある
- 4 万葉集に収められた歌は各人が好き勝手に漢字を使っており、通常はあるはずの規則性がない
- 5 一つの文字を複数の意味のもとに理解することは、著名な学者にとっても限りなく不可能に近い

ii 空欄 乙 を補うのにふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 日本以外の地域では必要とされなかったものの、独自の文字をもつことは独自の文化を有することに繋がる
- 2 現在も当たり前のように活用しているが、この文字がなければ現代の日本では中国語を使用していた
- 3 いろいろなことを工夫したり発明したりするという、日本人の特性が芽生えるきっかけになった文化である
- 4 アッカド語やシュメール語より更に創意工夫をもとに考案された文字であり、日本文化を象徴している
- 5 他の地域から輸入した文字をそのまま使用するという形式をとらず、日本人の工夫や発明によるものである

問8 次は本文を読んだ五人の生徒が語り合ったものである。本文の内容と合致しない意見を一つ選び、その番号を記しなさい。

- 1 Aさん——漢字は一つの文字に音や意味が複数あり、その複雑さが万葉仮名の読みづらさの大きな原因であると説明されているね。
- 2 Bさん——そうだね。また、当時の人々が好きな漢字を自由に当てはめたために、万葉仮名の数自体も九三七文字にまで増えたという説も述べられていたよ。
- 3 Cさん——現在日本で使用されている仮名は万葉仮名と異なってはじめてから四十七字しか存在していなかったから、その解読も容易であると言われていたね。
- 4 Dさん——解読といえ、固有名詞がその重要な手がかりになっていて、シャンポリオンのヒエログリフ解読の話が例として挙げられていたよ。
- 5 Eさん——歌を表音文字化したのは、歌を漢文で表してしまうと、言霊が死んでしまうという当時の考え方が影響していると思うよ。

設問は以上です。